

第4節 富士市内出土の中世陶磁器の様相

池谷 初恵

はじめに

富士市教育委員会では、平成29年度に吉原地区鈴川に所在する「富士塚」に関する考古学・文献・民俗・岩石の各調査を実施し、文化財調査報告書『鈴川の富士塚』を刊行した（富士市教育委員会2018）。富士塚のある鈴川は東海道元吉原宿に近接し、眼下にはかつての吉原湊をのぞむ陸・海の街道の結節点、流通の拠点であった。そこで、富士塚造営の背景としての吉原湊・宿・街道を明らかにするため、市内遺跡の中世陶磁器の詳細調査を実施した（池谷2018）。

『鈴川の富士塚』では出土陶磁器の概要や傾向を示したが、詳細なデータは掲載していないため、本稿において産地別・型式別・時期別の数量データを提示する。

1 富士市の中世遺跡の概要

富士市においては、著名な武士の館や戦国城館、中世の寺社等が知られていなかったこともあり、中世遺跡についてあまり注目されてこなかった経緯がある。これまで明らかになっている中世陶磁器は、発掘調査によるものではなく、偶然発見されたものが多い。

戦前に遡る古い発見資料では、比奈地区の医王寺経塚をあげることができる（静岡県1992）。経塚は天平年間の創建とされる古刹、医王寺境内で発見されたもので、経塚遺物は昭和9年に風で倒れた大木の根元から出土したとされる（駿河郷土史研究会1989）。「承安四年」（1174）の線刻銘のある経筒と、和鏡2面、白磁合子2点が出土している。

また、昭和39年、富士塚に程近い今井地区妙法寺（毘沙門天）西側の砂丘上で、五輪塔、蔵骨器、人骨などが多数発見された（鈴木1981）。当時の記録によれば、これらの遺物は造成工事中に砂丘を7～8m削平した際に発見されたと記されている。現在、富士山かぐや姫ミュージアムに保管されている資料は、五輪塔4基と「文保二年十二月八日」紀年

銘のある地輪1基、常滑三筋壺1点である（第193図-1）。五輪塔3基は、組合せは不確実ながら14世紀に位置付けられ、他の1基は15～16世紀のものとする（藤村2016、溝口2009・2012）。常滑三筋壺には人骨片が入っていたという記録もあり、蔵骨器として埋納されたものである。中野晴久氏の編年で常滑2型式（1150～1175年）に比定され、文保二年（1317）の五輪塔地輪とは約150年の年代差が生じることになる（註1）（中野2005・2012）。

蔵骨器と推定されるもう1例として、岩本地区の鎌研4号墳（通称「念信園古墳」）で発見された瀬戸産の壺3点が報告されている（第193図-2～4）（佐藤2010）。個人が採集した資料であり、出土状況は不明である。古瀬戸四耳壺2点と梅瓶1点で、いずれも古瀬戸前期、13世紀代のものである（註2）。出土地の近くには、実相寺や永源寺など中世に建立された寺院があり、また五輪塔などが集石された場所もあるという。これらのことから周辺には墓域が形成されていたと考えられる。

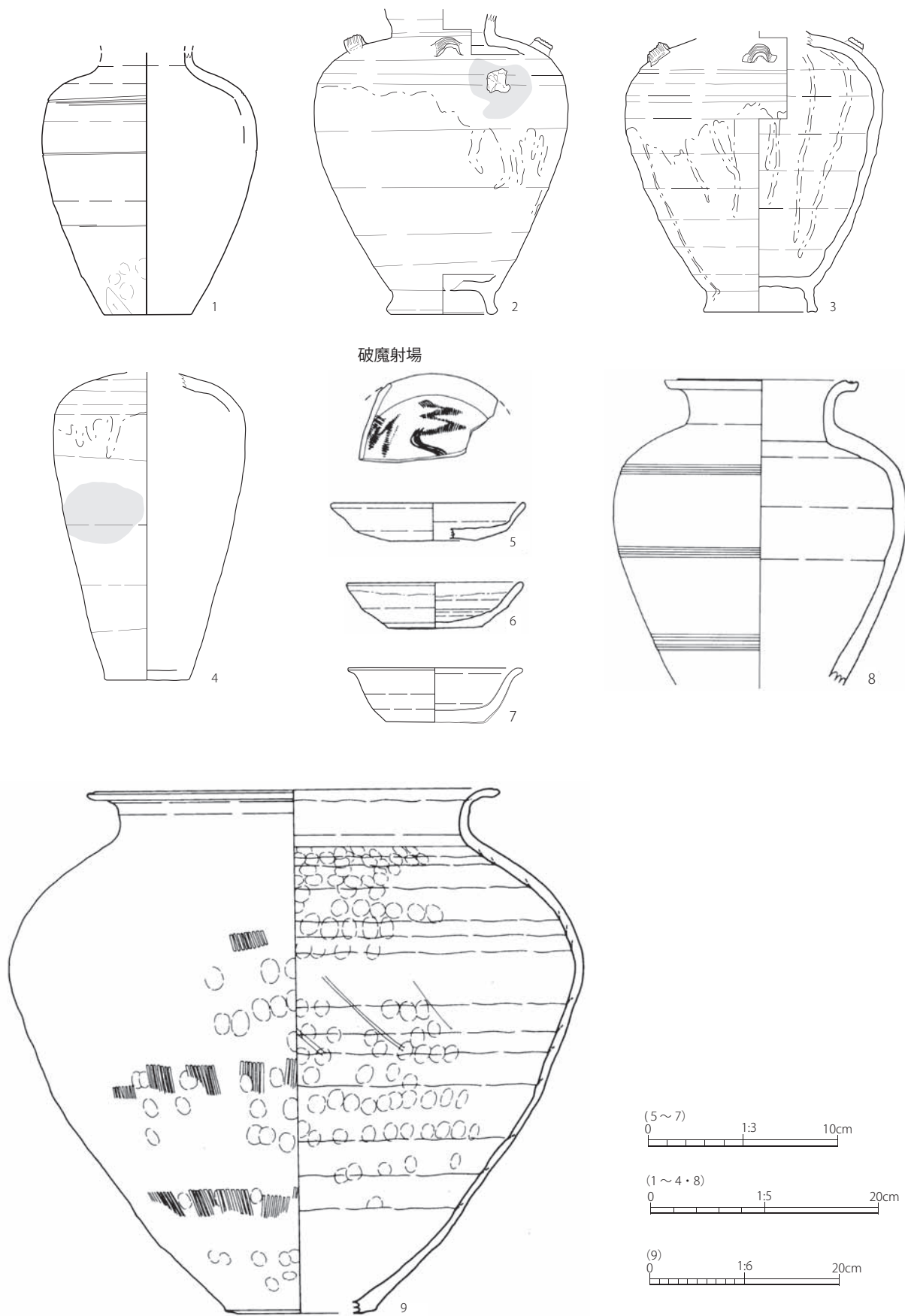
以上の3地点の中世遺物は、発掘調査によるものではないため、遺構や出土状況などが不明であるが、経塚や蔵骨器など宗教的な遺物であることが特徴である。

前述のように、著名な中世遺跡が存在しなかった富士市では、中世を主眼とした発掘調査の事例はあまり多くはないが、西富士道路建設に伴う広範囲の発掘調査において中世墓が検出された事例がある（富士市教委1981a、静岡県考古学会1997）。出口遺跡（註3）では、中世～近世の土坑が400基以上検出され、人骨・副葬品から土坑墓と認定できた遺構は16基である。このうち遺物から確実に中世と断定できる土坑墓は2基である。その他、ほとんどの土坑は出土遺物がなく墓と特定できないが、形状の類似性からみて、多数の土坑墓が存在し、中世から近世にかけての大規模な墓域が形成されていたと考えられる。

このような状況の中、平成28年度に富士山かぐ

今井五輪塔群

鎌研 4号墳



第 193 図 今井五輪塔群・鎌研 4号墳・破魔射場遺跡 出土陶磁器実測図

や姫ミュージアムにおいてテーマ展示「富士へとつながる海の道—吉原ミナトの交通史」が開催され、古代から近世に至る吉原湊に関連する資料が紹介された。前述の今井五輪塔群と常滑三筋壺や鎌研4号墳出土古瀬戸壺が展示され、藤村翔氏が富士市内の中世墓関連資料を報告した（藤村 2016）。

2 富士市の出土陶磁器

(1) 調査方法・分類基準

富士市において発掘調査の出土遺物（主に陶磁器）および採集資料を、遺跡ごとに産地・種別・型式ごとに分類し、点数を集計した。

型式分類・時期比定については、以下の分類基準を参考とした。また、瀬戸美濃、常滑、渥美等の東海系陶器については、愛知学院大学藤澤良祐氏・中野晴久氏のご教示を得た。

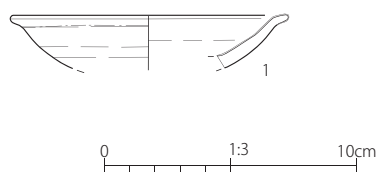
貿易陶磁（中国産陶磁器）：菊川町教育委員会 2000『横地城跡 総合調査報告書 資料編』、菊川シンポジウム実行委員会 2005『陶磁器から見る静岡県の中世社会—東でも西でもない』

瀬戸美濃（瀬戸美濃産陶器）：藤澤良祐 2007「第1章 総論」「編年表」『愛知県史 別編 窯業 2 中世・近世 瀬戸系』愛知県

常滑（常滑産陶器）：中野晴久 2012「第1章 総論 第3節 常滑窯」「編年表」『愛知県史 別編 窯業 3 中世・近世 常滑系』愛知県

渥美（渥美・湖西産陶器）：安井俊則 2012「第1章 総論 第2節 渥美窯」「編年表」『愛知県史 別編 窯業 3 中世・近世 常滑系』愛知県

なお、本稿においては、瀬戸美濃産陶器、瀬戸美濃系施釉陶器、瀬戸美濃焼などを略して「瀬戸美濃」と記述する。常滑産陶器、常滑焼は「常滑」、渥美・湖西窯陶器、渥美焼は「渥美」と略記する。志戸呂窯製品、初山窯製品については、「志戸呂」、「初山」と記す。



第194図 三新田遺跡 出土陶磁器実測図

(2) 対象遺跡と調査結果（第19～31表）

今回、調査した遺跡は16遺跡で、既に報告書は刊行されているが、包含層からの出土や他の時代の遺構に混入した中世遺物など、報告書に掲載されていない陶磁器を含めて分類・集計を行った。

元吉原宿遺跡

元吉原宿遺跡は戦国時代～近世初頭の吉原宿（元吉原宿）の範囲内にある（富士市教委 2015）。第3地区はわずか6㎡の面積の発掘調査であったが、瀬戸美濃大窯3段階の挿鉢と端反皿各1点が出土した。また、調査地点の地層は砂層と安定層を交互に堆積していることが確認され、風砂・高波・津波等の自然災害の影響が認められている。

三新田遺跡

三新田遺跡は元吉原宿遺跡の東に位置する。1981年と1993年に発掘調査が行われ、古墳時代前期初頭と奈良・平安時代の住居跡、掘立柱建物跡等が多数検出された（富士市教委 1983・2000）。明確な中世の遺構はないが、D地区において併行する2本の溝が検出されており、道路状遺構の可能性が指摘されている。

三新田遺跡では、貿易陶磁同安窯系青磁碗1点、瀬戸美濃古瀬戸後期Ⅲ期～大窯2段階の天目茶碗、丸皿、盤類など5点、志戸呂皿1点（第194図-1、PL.20-1）が出土している。また、常滑は2～3型式の甕1点、6b型式の甕・片口鉢Ⅱ類が各1点、13世紀代と15世紀代の甕5点を確認した。このほか15世紀代の羽釜1点が出土している。

柏原遺跡

柏原遺跡は『三代実録』貞観六年（864）十二月十日条に記載され、これ以後廃絶したとされる「柏原駅」の比定地である。発掘調査は11地点で行われ、奈良・平安時代の住居跡、掘立柱建物跡等が検出されている（富士市教委 2012・2013）。

中世の遺物は第4地区の溝と掘立柱建物跡の覆土から3～4型式の常滑・片口鉢Ⅰ類が各1点出土している。

善得寺城跡・東泉院跡

東泉院は江戸時代の吉原宿（新吉原宿）をのぞむ高台に位置する密教寺院である。平成19年度より、

富士市では代々東泉院の住持を務めた六所家が所有してきた膨大な資料、建物の総合調査を開始し、その一環として敷地内の埋蔵文化財の発掘調査を行った（富士市教委 2014、2016）。

調査の結果、出土遺物の大半が近世の陶磁器・土器・瓦であったが、少量ながら中世遺物が認められた。瀬戸美濃は古瀬戸後Ⅱ～Ⅳ古期の平碗、縁釉小皿、卸目付大皿など4点、大窯段階の播鉢1点である。常滑は11型式の甕2点、15世紀代の甕3点、片口鉢Ⅱ類1点で、中世後期に属するものが多いが、12世紀代の三筋壺や13世紀代の甕が各1点確認された。また、12世紀末～13世紀初頭の渥美甕1点もあり、中世前半の遺物も少なからず確認された。

東平遺跡

東平遺跡は古代の富士郡家に比定される遺跡で、8～10世紀の大規模な集落跡が調査されている。遺跡範囲は広大で、これまで93地点で発掘調査が行われている。今回はこのうち3地区、28地区の出土遺物を調査した。

〈3地区〉

西富士道路建設のため広大な範囲を調査した地区で、中世陶磁器も多数出土している（富士市教委 1981a・1981b）。貿易陶磁は龍泉窯系青磁碗A類（劃花文）1点、B1類（鎬蓮弁文碗）6点、B4類（線描き蓮弁文碗）1点（PL.20-1）、白磁皿C1類、天目茶碗など計18点である。瀬戸美濃は合計83点出

土しており、富士市内の遺跡では最も多い。古瀬戸中期の卸皿が3点出土していることが注目される。その他、古瀬戸後期の平碗16点（第195図-2

PL.20-2）、古瀬戸後Ⅳ期～大窯3段階の播鉢21点（第195図-5 PL.20-5）などが主体となる。また、縁釉小皿・はさみ皿など皿類（第195図-3・4

PL.20-3・4）も多く、古瀬戸後期Ⅰ期～大窯1段階に集中する傾向がある。その他、古瀬戸後期の天目茶碗2点、壺・瓶類が4点出土している。また、古瀬戸後Ⅳ期併行の志戸呂播鉢2点（第195図-9

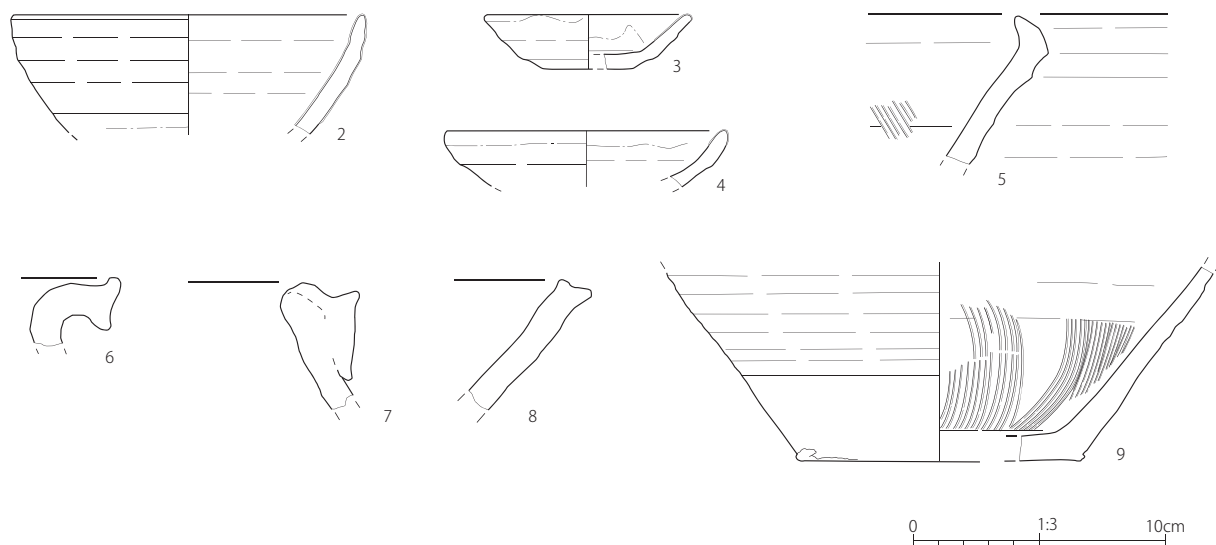
PL.20-9）、大窯4段階の内禿皿1点、大窯3後段階の初山内禿皿1点がある。常滑は4～6a型式の甕3点（第195図-6・7 PL.20-6・7）、10型式の甕1点、片口鉢Ⅱ類2点（第195図-8 PL.20-8）。その他13～14世紀の甕9点、15世紀代の甕10点と計25点確認され、中世全般のものが確認できた。渥美は12世紀後半の甕が4点ある。

このほか、かわらけ15点、器種不明の瓦質製品2点を確認した。

〈28地区〉

28地区は東平遺跡の南部、三日市廃寺跡と隣接する。古墳時代中期と7～8世紀の住居跡、掘立柱建物跡が検出されている（富士市教委 2001）。

貿易陶磁は11点出土しているが、中世前半のものが主体である。同安窯系青磁碗1点、龍泉窯系青磁碗のA類（第196図-1 PL.21-1・2）3点、B1



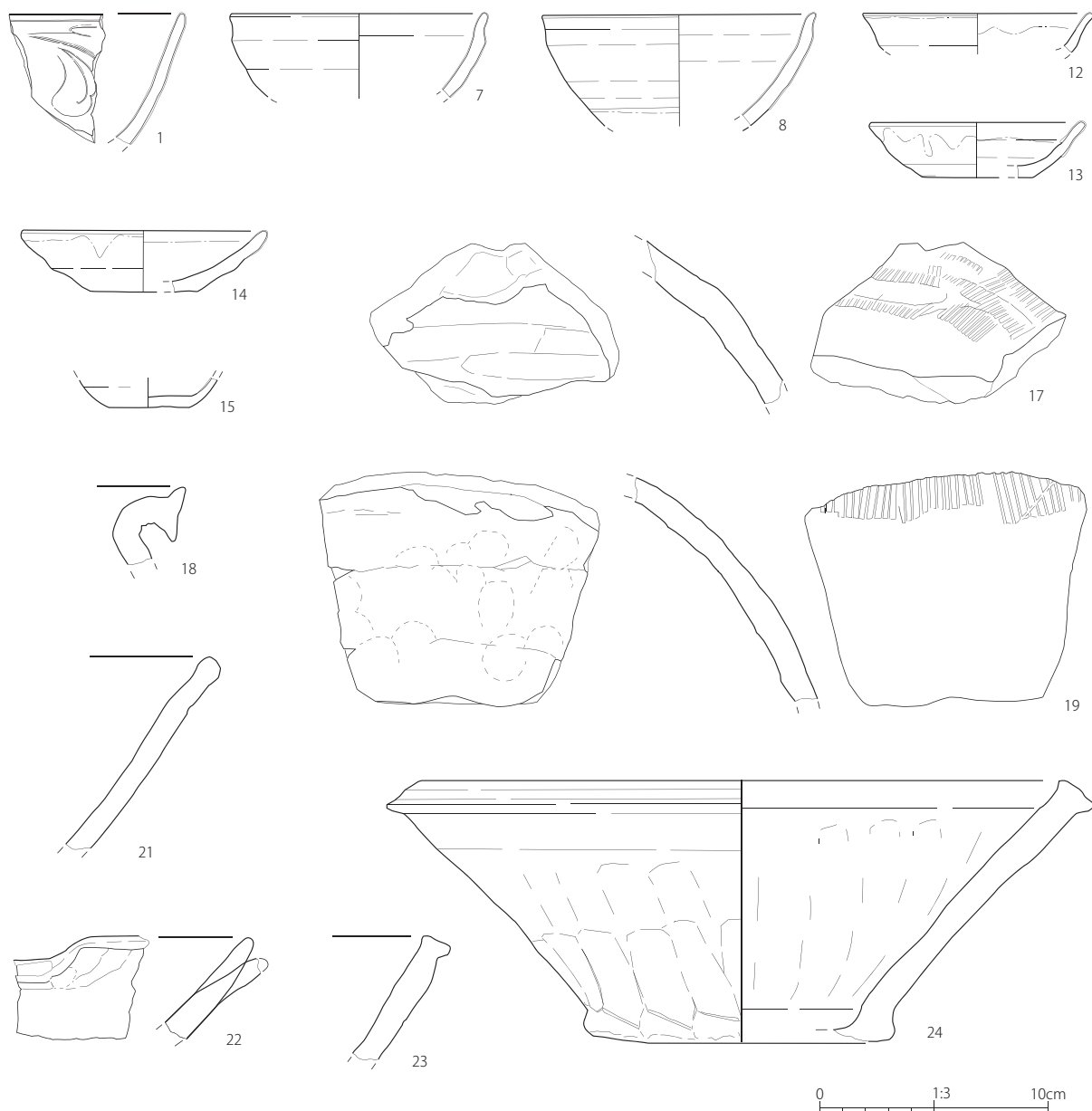
第195図 東平遺跡3地区 出土陶磁器実測図

類 (PL.21-3 ~ 4) 7 点、白磁皿 IX 類 (PL.21-5) 1 点などである。瀬戸美濃は出土数 23 点のうち古瀬戸後期のものが多く、天目茶碗 (第 196 図 -7・8 PL.21-6 ~ 8)・皿類 (第 196 図 -12・13・14 PL.21-9 ~ 14)・播鉢・盤類など 20 点で、大窯段階は少ない。古瀬戸前Ⅲ期～中Ⅱ期の入子 1 点 (第 196 図 -15 PL.21-15) は市内唯一の遺物である。常滑は 3 型式から 10 型式まで長期間にわたる甕 (第 196 図 -17・18・19 PL.21-16 ~ 20)・片口鉢Ⅱ類 (第 196 図 -21 ~ 24 PL.21-21 ~ 25) が出土しているが、6a ~ 7 型式に集中する傾向がみえる。渥美は 12 世紀後半から 13 世紀初頭の甕・片口鉢 6 点を確認した。

本地点ではかわらけがまとまって出土していることが特徴で、12 ~ 13 世紀の小皿のみの一群と 14 世紀後半 ~ 15 世紀代の大小組み合わせの一群がある。破片資料を含めると、かわらけの出土数は 115 点で、富士市内では最も多い。また、南伊勢系鍋が 1 点出土している。

三日市廃寺跡 (東平遺跡 16 地区)

三日市廃寺は、東平遺跡の南東部に隣接する遺跡で、古くから奈良時代の瓦が散布していたことが知られる。1994 年に発掘調査が行われ、7 ~ 9 世紀の住居跡、掘立柱建物跡が検出された (富士市教委 2002)。寺院に関連する遺構は確認されなかったが、



第 196 図 東平遺跡 28 地区 出土陶磁器実測図

8世紀前半の瓦が多数出土している。

中世の遺物は、常滑10型式の片口鉢Ⅱ類1点（第197図-1 PL.20-1）が出土したのみである。

出口遺跡

出口遺跡は前述の中世～近世の墓が多数検出された遺跡である（富士市教委1981a）。

第21号土坑墓の副葬品として、初山の天目茶碗1点（第198図-2 PL.20-2）、かわらけ小皿1点、小柄1点、六道銭として納めた中国銭6枚がある。この他に、包含層から瀬戸美濃の古瀬戸中Ⅰ・Ⅱ期の梅瓶（第198図-1 PL.20-1）、15世紀代の常滑甕が出土している。

中原遺跡

中原遺跡は東平遺跡の北部に位置し、同じく西富士道路建設のための調査が行われた（註4）（富士市教委1981a）。

瀬戸美濃は古瀬戸後Ⅰ・Ⅱ期の縁釉小皿、後Ⅳ期の播鉢、大窯2段階の丸皿の計3点と、古瀬戸後Ⅳ期併行期の志戸呂縁釉小皿1点（第199図-1 PL.20-1）が出土した。他にかわらけの破片1点を確認した。

浅間林遺跡

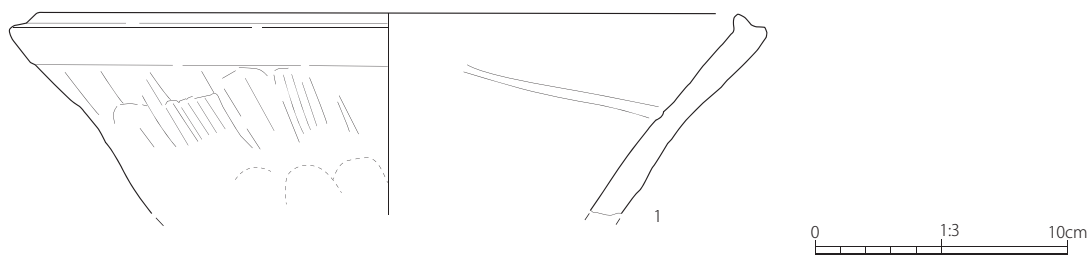
浅間林遺跡は富士川西岸の河岸段丘上に位置する縄文時代～近世に至る複合遺跡である（富士川町教委1981、1991）。各時代の遺構、遺物が重層的に検

出されているが、中心となる時代は縄文時代後・晩期と平安時代である。

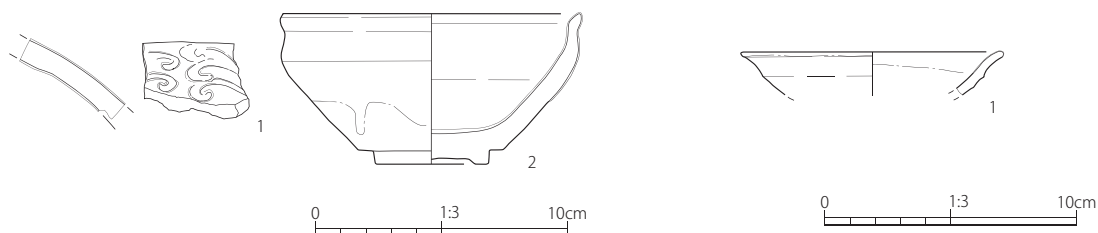
貿易陶磁は龍泉窯系青磁碗B1類2点（第200図-1 PL.22-1・2）、同時期の折縁皿1点、白磁碗Ⅳ類・皿Ⅸ類が各1点など、計7点出土している。瀬戸美濃は63点であり、古瀬戸中期の卸皿（第200図-12 PL.22-12）や壺・瓶類（第200図-17 PL.22-17）が4点あるが、主体となる時期は古瀬戸後期から大窯1～2段階で、天目茶碗（第200図-3・4 PL.22-3・4）、平碗（第200図-5・6 PL.22-5・6）、丸碗（第200図-7 PL.22-7）、縁釉小皿などの皿類（第200図-8～11 PL.22-8～11）、盤類（第200図-13・14 PL.22-13・14）、播鉢（第200図-15・16 PL.22-15・16）など器種も豊富である。志戸呂は古瀬戸後Ⅳ期併行期の縁釉小皿（第200図-19 PL.22-19）と盤類が各1点ある。常滑は3型式の三筋壺が2点あり、他に5～6a型式の甕1点、片口鉢Ⅰ類3点、6b～7型式の片口鉢Ⅱ類1点（第200図-18 PL.22-18）、9～10型式の甕11点、片口鉢Ⅱ類1点を確認された。渥美は12世紀後半の甕が1点ある。このほか、山茶碗4点、かわらけ7点、滑石製石鍋1点、茶臼1点が出土している。

半在家遺跡

半在家遺跡は浅間林遺跡と同様、富士川西岸の河岸段丘上に位置し、弥生時代末～古墳時代初頭の集



第197図 三日月市廃寺跡（東平遺跡16地区） 出土陶磁器実測図



第198図 出口遺跡 出土陶磁器実測図



第199図 中原遺跡 出土陶磁器実測図

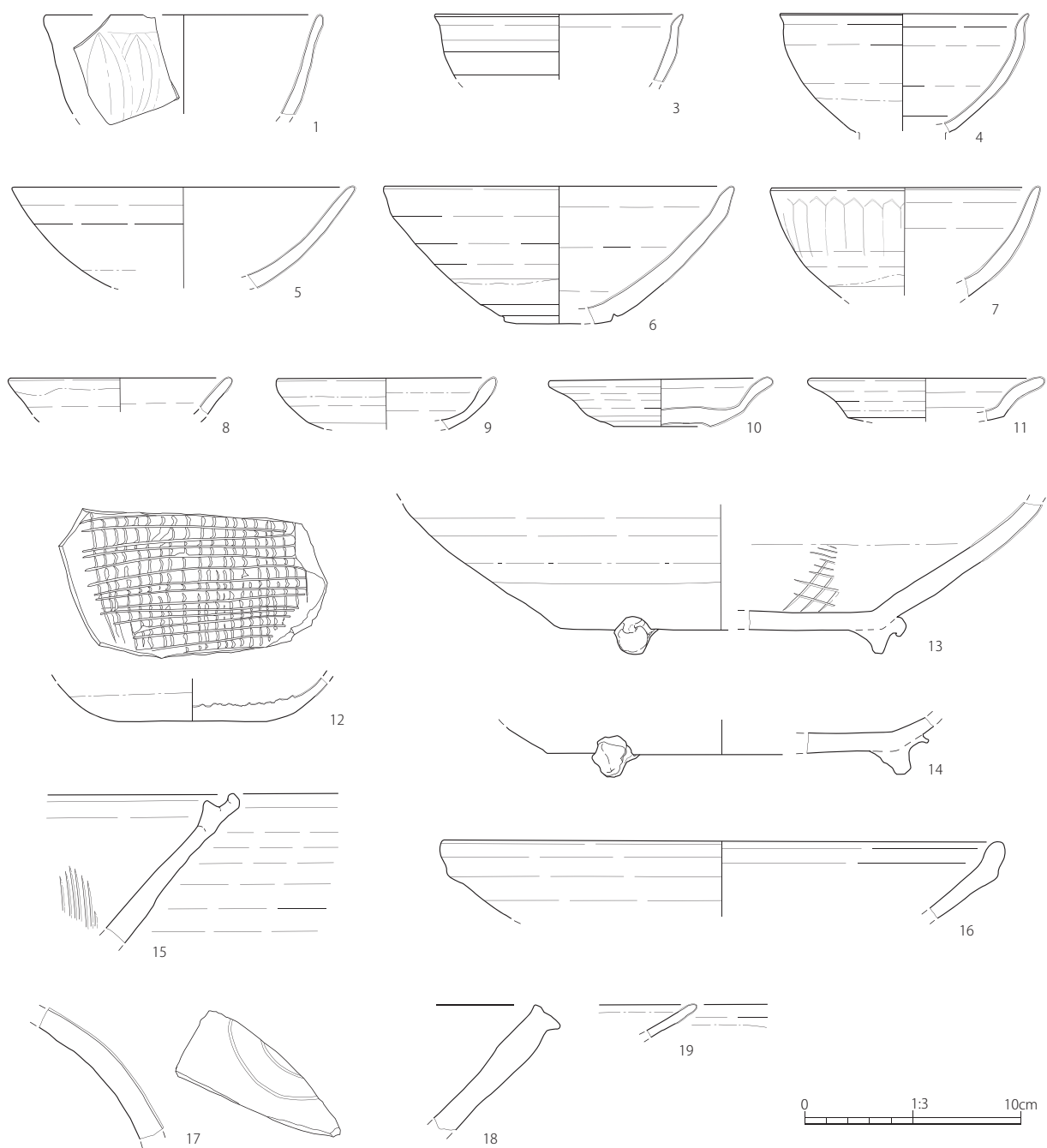
落、中世～近世の土坑墓、堀跡、石積遺構などが検出されている（富士川町教委 1986）。中世～近世の各遺構は時期を特定できていない。

貿易陶磁は龍泉窯系青磁碗 A4 類と B1 類が各 1 点出土している。瀬戸美濃は古瀬戸後Ⅳ期の平碗と大窯 3 段階の天目茶碗各 1 点である。

荻館

戦国時代の荻氏の居館跡と伝承される遺跡で、江戸時代末の絵図には土塁に囲まれた一町四方の館が描かれているが、現在は土塁の一部が残っているのみである（富士川町教委 1979）。

貿易陶磁は龍泉窯系青磁碗 B1 類 1 点のみである。



第 200 図 浅間林遺跡 出土陶磁器実測図

瀬戸美濃は古瀬戸後Ⅳ期の平碗・播鉢など6点、大窯段階は4段階の播鉢、志野皿など5点である。また、初山の内糸皿（第201図-2 PL.20-2）が1点ある。常滑は5～6b型式の甕（第201図-1 PL.20-1）・片口鉢Ⅱ類が2点ある。数は少ないが、中世全般にわたる遺物が出土しており、戦国時代に限定された居館ではなく、長期間営まれた遺跡と考えられる。

破魔射場遺跡

破魔射場遺跡は富士川西岸の段丘上の遺跡で、東名高速道路富士川サービスエリア改良工事に伴って、広大な面積の発掘調査が行われ、縄文時代中・後期、古墳時代、平安時代の遺構・遺物が多数検出された（財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所2001）。中世の遺構・遺物は遺跡北西部のB区で集中しており、土坑墓16基が確認されている。

貿易陶磁は同安窯系青磁碗4点、同皿（第193図-5）1点、白磁碗Ⅱ類とⅤ類各1点で、12世紀～13世紀初頭に限定される。瀬戸美濃は古瀬戸後Ⅰ期の縁釉小皿（第193図-6）、同Ⅱ期の折縁小皿（第193図-7）各1点である。常滑は2～3型式で甕（第193図-9）、三筋壺（第193図-8）、広口壺など計8点出土した。ほかに渥美の壺1点、東遠江系山茶碗が2点出土している。

沢上遺跡

沢上遺跡は岩淵地区にあり、縄文時代後期の集落と中世～近世の墓が確認されている（富士川町1968）。

貿易陶磁は龍泉窯系青磁劃花文1点、BⅠ類（第202図-1 PL.20-1）1点のほか、破片のため詳細は不明であるが、12～13世紀の青磁・白磁が確認された。常滑は5～6a型式の片口鉢Ⅰ類2点、8型式の片口鉢Ⅱ類（第202図-2 PL.20-2）1点が出土している。12世紀後半の渥美刻文小型壺（第202図-3）は中世墓に伴うもので、中に骨片が入っていたことから蔵骨器と考えられている（藤村2016）。

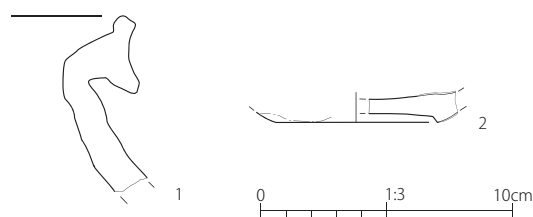
北松野屋敷遺跡

浅間林遺跡の遺物調査の際に確認した遺物で、表採遺物と考えられる。大窯4段階併行の志戸呂徳利（第203図-1 PL.20-1）である。北松野屋敷という埋蔵文化財包蔵地はないが、浅間林遺跡の南東に促

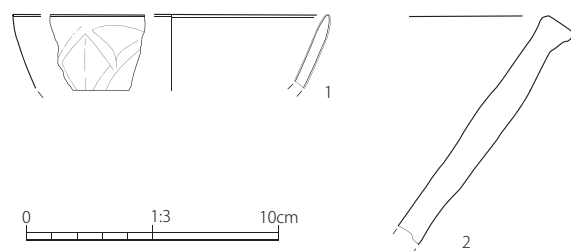
下と呼ばれる地域があり、古い屋敷跡があったといわれている。屋敷跡の詳細や正確な採取地点は不明であるが、浅間林遺跡に近接あるいは包蔵地範囲に含まれる地点の資料であろう。

今井五輪塔群

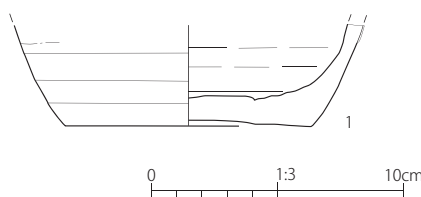
今井五輪塔群では、2型式の常滑三筋壺（第193図-1）が出土しているが、偶然採集されたものであり、出土状況や他の出土遺物は不明である。



第201図 萩館 出土陶磁器実測図



第202図 沢上遺跡 出土陶磁器実測図



第203図 北松野屋敷遺跡 出土陶磁器実測図

鎌研古墳群（念信園古墳）

今井五輪塔群の壺と同様、偶然採集されたものであり、出土状況や共伴遺物は不明である。古瀬戸前期Ⅲ～Ⅳ期の瀬戸美濃四耳壺（第193図-2・3）、梅瓶（第193図-4）の計3点が報告されている（佐

藤2010）。いずれも口縁部を意図的に打ち欠かれており、蔵骨器と考えられる。静岡県内では、古瀬戸前期段階の瀬戸美濃壺類は館跡や墓、社寺関連遺跡で出土する傾向があり、立地を考慮すると本例は寺社か墓の遺物の可能性が高い。

第19表 貿易陶磁出土状況

遺跡名	I期 11C後 ～12C前	II期 12C後 ～13C前	III期 13C中 ～14C前	IV期 14C後 ～15C中	V期 15C後 ～16C前	VI期 16C中 ～16C末	IV～V期 14C後 ～16C前	V～VI期 15C後 ～16C前	不明	出土数	特筆される遺物
元吉原宿遺跡										0	
三新田遺跡		1								1	
柏原遺跡（6地区）										0	
善得寺城跡・東泉院跡										0	
東平遺跡（3地区）		1	7		2				8	18	天目茶碗
東平遺跡（28地区）		5	5						1	11	
三日市廃寺跡（東平16地区）										0	
出口遺跡										0	
中原遺跡										0	
浅間林遺跡	1		3						3	7	
半在家遺跡		1	1							2	
荻館			1							1	
破魔射場遺跡	1	6								7	
沢上遺跡		1	1						2	4	
北松野屋敷										0	
今井五輪塔群										—	
鎌研4号墳（念信園古墳）										—	
医王寺経塚		4								—	白磁合子 2合
元富士大宮司館跡	2	142	100	45	6				60	355	青白磁梅瓶・合子 天目茶碗 黄釉盤 高麗青磁皿
元富士大宮司館跡Ⅱ	1	4	5	2	2				4	18	
浅間大社（市1～4次）	1	12	8		1				3	25	白磁四耳壺 青白磁梅瓶 天目茶碗
浅間大社（市10次・県2009）		41	53	11	3				36	144	
西通北遺跡（市・県）	4	18	48	1	2				18	91	白磁四耳壺 青白磁梅瓶
中原遺跡	○	○	○		○					—	

第20表 瀬戸美濃出土状況（志戸呂・初山含む）

遺跡名	I期 11C後 ～12C前	II期 12C後 ～13C前	III期 13C中 ～14C前	IV期 14C後 ～15C中	V期 15C後 ～16C前	VI期 16C中 ～16C末	IV～V期 14C後 ～16C前	V～VI期 15C後 ～16C前	不明	出土数	特筆される遺物
元吉原宿遺跡						2				2	
三新田遺跡					5	1				6	
柏原遺跡（6地区）										0	
善得寺城跡・東泉院跡				3	1			1		5	
東平遺跡（3地区）			2	27	29	4	14	11		87	
東平遺跡（28地区）			1	13	5		2	2		23	
三日市廃寺跡（東平16地区）										0	
出口遺跡			1			1				2	古瀬戸中期梅瓶
中原遺跡				2	2					4	
浅間林遺跡			3	23	28	1	10			65	古瀬戸中期瓶類
半在家遺跡					2					2	
荻館					4	3	2	3		12	
破魔射場遺跡				2						2	
沢上遺跡										0	
北松野屋敷						1				1	
今井五輪塔群										—	
鎌研4号墳（念信園古墳）			3							—	古瀬戸前期四耳壺 ・瓶子
医王寺経塚										—	
元富士大宮司館跡		6	9	75	182	13	29			314	
元富士大宮司館跡Ⅱ				3	18	2	6	3		32	
浅間大社（市1～4次）				8	16		1			25	
浅間大社（市10次・県2009）			2	14	34	9	28	11		98	
西通北遺跡（市・県）				2	10	11	7	6		36	
中原遺跡		○	○	○	○	○				—	

第21表 東海系陶器出土状況（常滑・渥美他）

遺跡名	I期	II期	III期	IV期	V期	VI期	IV～V期	V～VI期	不明	出土数	特筆される遺物
	11C 後 ～ 12C 前	12C 後 ～ 13C 前	13C 中 ～ 14C 前	14C 後 ～ 15C 中	15C 後 ～ 16C 前	16C 中 ～ 16C 末	14C 後 ～ 16C 前	15C 後 ～ 16C 前			
元吉原宿遺跡										0	
三新田遺跡		2	2				4			8	
柏原遺跡（6地区）		2								2	
善得寺城跡・東泉院跡		2	1		2		4			9	
東平遺跡（3地区）		6	10		3		10			29	
東平遺跡（28地区）		14	19	3	3		27			66	
三門市廃寺跡（東平16地区）					1					1	
出口遺跡							1			1	
中原遺跡		1								1	
浅間林遺跡		13	9	5	7					34	常滑三筋壺
半在家遺跡										0	
荻館			2							2	
破魔射場遺跡		11								11	常滑三筋壺
沢上遺跡		1	2	1						4	渥美刻文小壺
北松野屋敷										0	
今井五輪塔群		1								—	常滑三筋壺
鎌研4号墳（念信園古墳）										—	
医王寺経塚										—	
元富士大宮司館跡		○	○	○	○					1280	
元富士大宮司館跡Ⅱ		3	2		1				66	72	
浅間大社（市1～4次）		○	○	○						132	
浅間大社（市10次・県2009）		216	42	53	23	1	71		31	437	
西通北遺跡（市・県）		40	27	2	2				22	93	
中原遺跡		○	○	○						—	

第22表 陶磁器出土傾向

遺跡名	I期	II期	III期	IV期	V期	VI期	その他 特筆される遺物	調査面積 (㎡)
	11C 後 ～ 12C 前	12C 後 ～ 13C 前	13C 中 ～ 14C 前	14C 後 ～ 15C 中	15C 後 ～ 16C 前	16C 中 ～ 16C 末		
元吉原宿遺跡						●		6
三新田遺跡		●	●	●	●	●		12,500 ?
柏原遺跡（6地区）		●						224
善得寺城跡・東泉院跡		●	●	●	●	●		2350
東平遺跡（3地区）		●	●	●	●	●	かわらけ 瓦質製品 硯	13,700
東平遺跡（28地区）		●	●	●	●	●	かわらけ 南伊勢系鍋	5,447
三門市廃寺跡（東平16地区）					●			670
出口遺跡			●	●	●	●	銭貨伴う中世墓	?
中原遺跡		●		●	●			?
浅間林遺跡	●	●	●	●	●	●	かわらけ 滑石製鍋 茶臼	4,031
半在家遺跡		●	●		●			3,060
荻館			●	●	●	●		—
破魔射場遺跡	●	●		●				(20,554)
沢上遺跡		●	●	●				—
北松野屋敷						●		—
今井五輪塔群		●						—
鎌研4号墳（念信園古墳）			●					—
医王寺経塚		●						—
元富士大宮司館跡（大宮城）	●	●	●	●	●	●	南伊勢系鍋 瓦質火鉢・風炉 かわらけ大量出土	4,180
浅間大社	●	●	●	●	●	●	かわらけ大量出土	1,589
西通北遺跡	●	●	●	●	●	●	南伊勢系鍋 軒平瓦	25,009
中原遺跡	●	●	●	●	●	●		—

第23表 時期区分と陶磁器分類

	年代	貿易陶磁 * 主な分類のみ	瀬戸美濃	常滑	渥美	山茶碗
I期	11世紀後半～ 12世紀前半	白磁碗Ⅱ・Ⅳ		1a・1b型式	1a型式	3・4型式
II期	12世紀後半～ 13世紀前半	青磁碗A 青磁同安窯系碗 白磁碗V	古瀬戸前期Ⅰ・Ⅱ期	2～5型式	1b～3a型式	5・6型式
III期	13世紀中葉～ 14世紀前半	青磁碗B0・B1 白磁碗ⅢⅨ	古瀬戸前期Ⅲ・Ⅳ期 中期Ⅰ・Ⅱ期	6a～7型式	3b・3c型式	7・8型式
IV期	14世紀後半～ 15世紀中葉	青磁碗B2・B3・C2・D1 白磁ⅢB	古瀬戸中期Ⅲ・Ⅳ期 後期Ⅰ～Ⅲ期	8・9型式		9・10型式
V期	15世紀後半～ 16世紀前半	青磁碗B4・D2・E1 白磁ⅢC1 染付碗ⅢC・ⅢB1	古瀬戸後期Ⅳ古・新时期 大窯Ⅰ～3前段階	10・11型式		11型式
VI期	16世紀中葉～ 16世紀前半	青磁碗E2 白磁ⅢC2 染付碗ⅢE・ⅢB2	大窯3後～4後段階	12型式		

3 陶磁器の出土傾向の分析

(1) 時期区分の設定 (第19～22表)

次に前項で概要を記した遺跡の出土状況を比較するため、11～16世紀をⅠ～Ⅵ期の6期に区分し、数値を示す表を作成した(第19～22表)。時期区分に際し該当する主な各陶磁器分類は、第23表の通りである。

なお、比較のため、富士宮市元富士大宮司館跡、浅間大社遺跡、沼津市西通北遺跡、中原遺跡の出土数・傾向を各表下段に付した。

元富士大宮司館跡(大宮城跡)は中世前半には浅間大社の大宮司富士氏の居館、戦国時代には大宮城として築かれた重層的な遺跡である(富士宮市教委2000、2014)。元富士大宮司館跡で注目されるのは、陶磁器の出土量の多さとともに、かわらけが大量に出土していることである。破片数で約33000点出土しており、出土量全体の93%を占める(註5)。

浅間大社遺跡は富士山本宮浅間大社の境内地であり、境内5地点と本殿裏の神立山地区、湧玉池などで調査が行われている(富士宮市教委1996、2003、2013、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所2009)。今回は富士宮市が調査・報告した社殿南側の第1～4地点および湧玉池、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査した社殿北側の神立山地区と推定護摩堂跡地点の陶磁器出土量を示した(註6)。浅間大社遺跡では、元富士大宮司館跡と同様に大量のかわらけが出土しており、破片総数は約15600点で、出土量全体の約9割を占めている。

西通北遺跡は沼津市西部、浮島ヶ原と呼ばれる低湿地帯の東端、標高6mに位置する。弥生時代から近世の長期間営まれた集落遺跡で、住居跡・溝などが検出されている。中世の遺構は検出されていないが、一定量の遺物が確認できる(註7)(財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所2011、沼津市教委2013)。

中原遺跡は沼津市の西部、富士市から続く砂丘上に立地し、古代東海道沿いに位置する。古墳時代、奈良・平安時代の住居跡が100軒以上検出された大規模な集落遺跡である(沼津市教委2016)。現在も発掘調査、整理調査が継続中であり、中世の遺構・遺物の詳細については未報告であるが、整理調査中

の遺物を実見する機会を得たため、現状の出土傾向のみ記すこととする。

(2) 時期別の出土傾向

貿易陶磁

Ⅰ期(11世紀後半～12世紀前半)の陶磁器を出土する遺跡は非常に少なく、浅間林遺跡と破魔射場遺跡のみである。Ⅱ期(12世紀後半～13世紀前半)は、Ⅰ期より遺跡数が増え6遺跡となる。Ⅲ期(13世紀後半～14世紀前半)もⅡ期同様の遺跡数で出土数も一定量認められる。Ⅳ期以降は東平遺跡3地区の2点を除き、貿易陶磁を出土する遺跡はみられなくなる。また、出土遺物のほぼすべてが碗・皿類であり、白磁四耳壺・青白磁梅瓶などの壺瓶類は出土していない。

全体として富士市内における貿易陶磁の出土数は少なく、元富士大宮司館跡・浅間大社遺跡と比較すると、その差は歴然としている。これら富士宮の2遺跡は、拠点的な富士氏の館跡や宗教施設という特別な存在ではあるが、館や寺社でない沼津市西通北遺跡と比較しても少ない傾向が確認された。

静岡県東部から伊豆地域では、中世前半には一定量の貿易陶磁が見られるが、後半とくに15世紀以降の陶磁器は極端に少なくなる。富士市ではそれが明瞭に現れた状況といえる。また、現在までのところ染付が出土していないが、15～16世紀に全国的に展開する染付碗・皿が、当地域では城館以外ではごく少量しか出土しない傾向とも一致している(池谷2015)。

瀬戸美濃

Ⅰ・Ⅱ期はなく、Ⅲ期から次第に遺跡数が増える。Ⅲ期4遺跡、Ⅳ期6遺跡、Ⅴ期8遺跡、Ⅵ期7遺跡で、Ⅲ～Ⅴ期まで次第に遺跡数が増加し、東平遺跡3地区や浅間林遺跡のように出土数も増加する傾向が認められる。Ⅵ期になると、遺跡数は変わらないものの出土数は激減する。さらにこの時期には志戸呂や初山の製品が含まれてくるので、瀬戸美濃の減少傾向は著しいといえる。元富士大宮司跡や浅間大社遺跡でも同様の傾向がみられるが、数量の比較では、貿易陶磁ほどの格差が見られないことは留意しておきたい。

東海系陶器（常滑・渥美・山茶碗）

I期とVI期のものはないが、II～V期はいずれも一定量確認できた。II・III期が比較的多いが、東平遺跡3地区・28地区のように、II期からIII期にかけて増加する遺跡と、浅間林遺跡・破魔射場遺跡のようにII期からIII期に減少する遺跡との両者がみられる。後者については渥美の出土量が影響している。

以上のように、富士市内の中世遺跡においては、数は多くないものの中世全般にわたる各種陶磁器を確認できた。前述のように、富士宮市の2遺跡と比較すると数量の差は大きく、また器種の豊富さにも差がある。第22表に調査面積を示したが、一部を除いて広い面積の調査は行われていないことが一因であるが、東平遺跡3地区などのように1万㎡以上の調査事例もあり、一概に調査面積の差ともいえない。富士宮市の2遺跡は館跡、宗教施設といういわば特殊な性格をもつ拠点となる遺跡であり、とくに

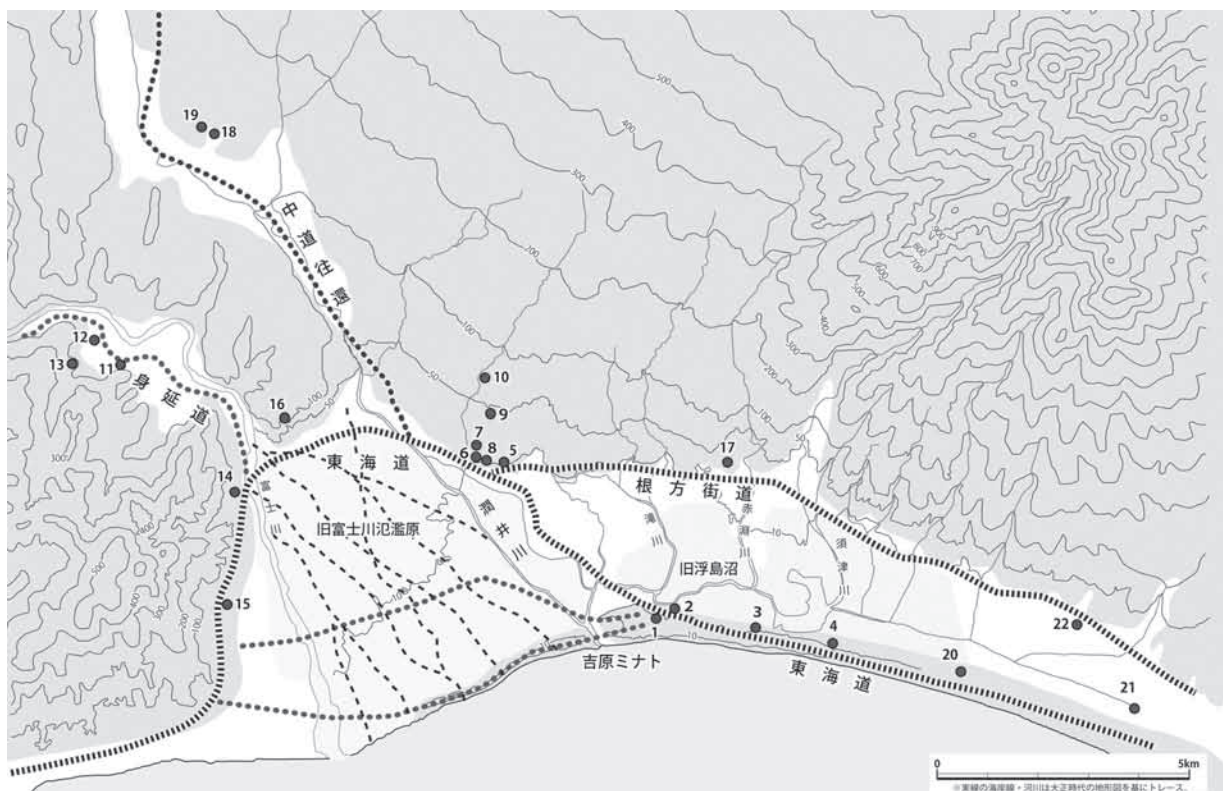
中世前半における数の差はここに起因しているであろう。

(3) 遺跡の立地と街道との関連

最後に、これまで述べてきた陶磁器の出土状況を遺跡の分布ごとに整理しておく。

富士川左岸の田子の浦砂丘上の元吉原地区には、元吉原宿遺跡、三新田遺跡など、数は少ないものの中世全般にわたる遺物が出土している。同じ砂丘上に立地する沼津市の中原遺跡、西通北遺跡でも一定量の遺物が確認でき、とくに中世前半の遺物が多い。田子の浦砂丘上には、富士市から沼津市にかけて古代の集落が濃密に分布しており、古代東海道の柏原駅が置かれたことも知られているが、中世においても全般にわたる遺物が出土しており、古代東海道が中世にも継続して使われていたことが確認できた。

つぎに古代に郡衙がおかれた東平遺跡周辺の伝法



1. 今井五輪塔群 2. 元吉原宿遺跡 3. 三新田遺跡 4. 柏原遺跡（4地区） 5. 善得寺城跡・東泉院跡
6. 東平遺跡（28地区） 7. 東平遺跡（3地区） 8. 三日月寺跡（東平16地区） 9. 出口遺跡
10. 中原遺跡（富士市） 11. 浅間林遺跡 12. 半在家遺跡 13. 荻館 14. 破魔射場遺跡 15. 沢上遺跡
16. 鎌研4号墳（念信園古墳） 17. 医王寺経塚 18. 元富士大宮司館跡（大宮城） 19. 浅間大社（市・県）
20. 中原遺跡（沼津市） 21. 西通北遺跡 22. 興国寺城跡

第204図 遺跡位置図

地区の状況をみる。東平遺跡ではⅡ～Ⅴ期の遺物が出土しており、中世全般にわたるが、北側の3地区ではとくに14世紀後半～15世紀前半の遺物が多い傾向がある。東側の善得寺城・東泉院跡では15世紀後半～16世紀前半の遺物が集中している。また、これらの遺跡の東側は古代東海道と山沿いの根方街道が結節する場所とされており、さらに富士宮市方面へ向かう中道往還（右左口路）（海老沼 2008 佐藤 2015）にも接している。前述のように、富士宮市の富士大宮司館跡・浅間大社遺跡のような居館・宗教・城郭など核となる場が形成されたことにより、東海道の東・西から富士宮方面に向かうルートが重要視されてくることは確実であろう。

富士川右岸の松野地区では、浅間林遺跡で多くの遺物が出土している。Ⅳ・Ⅴ期の遺物が多いが、中世全般にわたる遺物が確認できた。破魔射場遺跡は12世紀前半頃からはじまり、中世前半が中心である。その他、半在家遺跡、萩館など館の伝承をもつ遺跡で、15～16世紀の遺物が出土しているが、戦国時代の遺物に限らないため、伝承の時期とは異なっていることがわかってきた。これらは蒲原から富士川沿いに芝川、甲斐方面に北上するルート、いわゆる身延道（河内路）に沿って点在する遺跡ととらえられる。

最後に、蔵骨器などの出土位置を確認しておく。発掘調査による出土状況は不明瞭ながら、今井五輪塔群、沢上遺跡、鎌研古墳で出土した常滑・渥美・古瀬戸の壺類は、蔵骨器もしくはその可能性が高いものである。医王寺経塚や出口遺跡の中世墓群も含めれば、これら宗教関連遺跡は、富士山麓に点在する傾向をみることができる。また、これらは中世に遡る寺院が山麓沿いに多く分布する傾向とも一致している。

今回抽出した遺跡は古代東海道やそこから派生する中道往還沿いなどに分布していることが確認できた。古代東海道は元吉原地区付近から北西に進み、富士郡家である東平遺跡付近を通過した後、富士川を渡り、蒲原方面に南進するルートが想定されている。中世の東海道も基本的にはこれを踏襲していたであろう。しかし、中世においては富士川を渡るルートは1つには限られなかった（大高 2018）。古代東

海道ルートのほかに、徒歩で富士川河口をわたり、田子の浦砂丘上か富士川氾濫原の微高地上から元吉原地区に至るルートがあった（『十六夜日記』など）。中世後期には、蒲原から船で吉原湊へ渡った記録（『東国紀行』）や、それに従事した矢部氏の存在も史料から明らかになっている。戦国時代には、元吉原地区に今川氏、北条氏、豊臣氏が在陣したという史料が多くあり、この地が領国境界域に位置する重要な戦略拠点であったことも知られる。また、吉原湊口には、元吉原宿に先行して置かれたという「見附」や、旅人の生贄伝説と関連する阿字神社が富士山信仰と関連する信仰や祭祀の場であるとともに、交通上の要所であったことが指摘されている（鈴木 1981、松田 2018）。

しかし、富士川と元吉原地区を結ぶ田子の浦地区における中世の考古学的情報は皆無であり、かつての吉原湊も自然災害や港湾の整備によって地形が大きく変えられているため、当時の湊や海路についての検証は困難な状況である。

おわりに

本稿では、中世陶磁器のデータ、出土傾向などを提示し、富士市内の遺跡の消長、分布を整理した。今回は旧東海道沿い・伝法地区・旧富士川町に所在する遺跡の調査を行った。市内のもうひとつの重要な街道である愛鷹山麓沿いの「根方街道」周辺の遺跡については未調査である。今後、同様の視点で調査・分析を行い、富士市内全体の中世の動向を総括的に検討する必要がある。

富士市は東海道、富士川水運、駿河湾海路の重要な拠点のひとつであり、東西、北からも時代によってさまざまな影響を受け、地域相が変容していったことが想定される。今後の調査の進展により、中世の具体的な地域的特色が明らかになっていくことであろう。

今回の調査、本稿の執筆にあたり、以下の方々にご教示・ご協力いただいた。記して感謝申し上げる。

藤澤良祐 中野晴久 山本智子 森まどか
高野夏姫（敬称略）

註

1. 中野晴久氏のご教示による。
2. 藤澤良祐氏のご教示による。
3. 調査時の遺跡名称は伝法遺跡群 B 地区である（富士市教委 1981a）。
4. 調査時の遺跡名称は伝法遺跡群 C・D 地区である（富士市教委 1981a・b）。
5. 出土遺物の集計については、昭和 59 年度、平成 9・10 年度の調査区は菊川市横地城跡総合調査における調査成果（菊川シンポジウム実行委員会 2005）、平成 24 年度調査区は報告書掲載データ（富士宮市教委 2014）と筆者の実見結果に基づいて行った。横地城跡総合調査のデータでは東海系陶器の型式別の出土数が不明なため、報告書掲載遺物から筆者が判断して出土傾向を示した。
6. 出土遺物の集計については、第 1～4 地点は菊川市横地城跡総合調査における調査成果（菊川シンポジウム実行委員会 2005）、湧玉池（富士宮市教委 2013）と社殿北側の神立山地区と推定護摩堂跡地点（静岡県埋文研究所 2009）は報告書掲載データを合算して提示した。
7. 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所と沼津市教育委員会の 2 機関によって分割されて発掘調査が行われたが、すでに 2 地点とも報告書が刊行されているため、本稿では合算した数量を示した（静岡県埋文研究所 2011、沼津市教委 2013）。

参考文献

- 池谷初恵 2015「出土遺物からみた 14～15 世紀の遺跡の様相—静岡県における陶磁器の組成・量の分析から—」『中世を終わらせた生産革命—量産化技術の広がりと影響—』平成 23～26 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書
- 池谷初恵 2018「吉原湊をめぐる中世遺跡の概要」『鈴川の富士塚』富士市教育委員会
- 海老沼真治 2008「古代・中世甲斐国交通関係文献史料の概要」『古代の交易と道』山梨県立博物館
- 大高康正 2018「歴史資料にみる富士塚」『鈴川の富士塚』富士市教育委員会
- 菊川町教育委員会 2000『横地城跡 総合調査報告書 資料編 菊川シンポジウム実行委員会 2005』陶磁器から見る静岡県の
中世社会』
- 佐藤祐樹 2010「富士市岩本出土の古瀬戸」『平成 14・20 年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』富士市教育委員会
- 佐藤祐樹 2015「清水岩の上遺跡出土の弥生土器」『富士市内 遺跡発掘調査報告書—平成 24・25 年度』富士市教育委員会
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2001『富士川 SA 関連 遺跡 破魔射場遺跡 谷津原古墳群 北久保遺跡 遺構 編・遺物編』
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009『浅間大社遺跡 山宮浅間神社遺跡』

- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2011『西通北遺跡 平成 20～22 年度 JR 東海道線本線・JR 御殿場線緊急地方道路整備事業（街路 B） 平成 21 年度 JR 東海道線本線・JR 御殿場線都市高速鉄道高架事業（新車両基地） 建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 静岡県 1992『静岡県史』資料編 3 考古三
- 静岡県考古学会 1997『静岡県における中世墓』
- 鈴木富男 1981『鈴川の歴史』鈴川区管理委員会
- 駿河郷土史研究会 1989『富士市の仏教寺院』
- 中野晴久 2005「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の
中世社会』菊川シンポジウム実行委員会
- 中野晴久 2012「第 1 章 総論 第 3 節 渥美窯」「編年表」『愛知県史 別編 窯業 3 中世・近世 常滑系』愛知県
- 沼津市教育委員会 2013『西通北遺跡』
- 沼津市教育委員会 2016『中原遺跡』
- 富士川町 1968『富士川町史』追補
- 富士川町教育委員会 1979『ふるさと富士川』第 1 集
- 富士川町教育委員会 1981『浅間林遺跡発掘調査概報 静岡県 庵原郡富士川町 県道富士川・身延線道路改良工事地内での調査』
- 富士川町教育委員会 1986『半在家 県道富士川・身延線改良工事に伴う発掘調査報告書』
- 富士川町教育委員会 1991『浅間林 県道富士川・身延線道路改良に伴う第 4 次発掘調査概報』
- 藤澤良祐 2005「瀬戸美濃と志戸呂・初山」『陶磁器から見る 静岡県の
中世社会』菊川シンポジウム実行委員会
- 藤澤良祐 2007「第 1 章 総論」「編年表」『愛知県史 別編 窯業 2 中世・近世 瀬戸系』愛知県
- 富士市教育委員会 1981a『西富士道路（富士地区）岳南広域 都市計画道路田子浦臨港線埋蔵文化財発掘調査報告書 横沢古墳・中原 1 号墳・伝法遺跡群（伝法 A～E 地区）・天間地区』
- 富士市教育委員会 1981b『西富士道路（富士地区）岳南広域 都市計画道路田子浦臨港線埋蔵文化財発掘調査報告書 東平遺跡』
- 富士市教育委員会 1983『三新田遺跡発掘調査報告書』
- 富士市教育委員会 2000『三新田遺跡（D 地区）発掘調査報告書』
- 富士市教育委員会 2001『東平遺跡 第 28 地区発掘調査報告書』（東平 28 地区）
- 富士市教育委員会 2002『東平遺跡 第 16 地区（三日月廃寺跡）、第 27 地区発掘調査報告書』（東平 16 地区〔三日月廃寺跡〕）
- 富士市教育委員会 2012「15. 柏原遺跡第 3 地区」『富士市内 遺跡発掘調査報告書—平成 11・12 年度』
- 富士市教育委員会 2013「第 4 章 柏原遺跡の調査」『富士市内 遺跡発掘調査報告書—平成 22・23 年度』
- 富士市教育委員会 2014『六所家総合調査報告書 埋蔵文化財』（善得寺城跡・東泉院跡）

富士市教育委員会 2015「28. 元吉原宿遺跡 第3地区」『富士市内遺跡発掘調査報告書ー平成24・25年度』

富士市教育委員会 2016『六所家総合調査報告書 埋蔵文化財②』

富士市教育委員会 2018『鈴川の富士塚』

富士宮市教育委員会 1996『浅間大社遺跡 ー神田川ふれあい広場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー』(1・2次調査)

富士宮市教育委員会 2000『元富士大宮司館跡 ー大宮城跡にかかわる埋蔵文化財発掘調査報告書ー』

富士宮市教育委員会 2003『浅間大社遺跡Ⅱ』(3・4次調査)

富士宮市教育委員会 2005「浅間大社遺跡 第5次」『富士宮の遺跡Ⅲ ワラビ平遺跡 塚本古墳第2次 浅間大社遺跡第5次 発掘調査報告書』(5次調査)

富士宮市教育委員会 2013『浅間大社遺跡Ⅲ ー国指定特別天然記念物『湧玉池』再生事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

富士宮市教育委員会 2014『元富士大宮司館跡Ⅱ ー大宮城跡にかかわる埋蔵文化財発掘調査報告書ー』

藤村 翔 2016「富士市域の中世墓 ー今井中世五輪塔群・沢上遺跡出土資料の紹介ー」『富士山かぐや姫ミュージアム 館報 第31号(平成29年度)』

松田香代子 2018「富士塚と民俗」『鈴川の富士塚』富士市教育委員会

溝口彰啓 2009「遠江・駿河の石塔」『東海地域における中世石塔の出現と展開』石造物研究会第10回研究会資料

溝口彰啓 2012「東海(遠江・駿河・伊豆)」『中世石塔の考古学』高志書院

安井俊則 2012「第1章 総論 第2節 渥美窯」「編年表」『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』愛知県

渡井英誉 佐野恵里 2003「信仰遺跡の変遷」『富士宮の遺跡Ⅱ ー富士宮市遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』富士宮市教育委員会

第24表 中世陶磁器・土器集計表

種 別	元吉原宿 遺跡	三新田 遺跡	柏原遺跡 6 地区	善徳寺跡・ 東泉院跡	東平遺跡 3 地区	東平遺跡 28 地区	三日市廃寺 (東平16地区)	出口遺跡	中原遺跡	浅間林 遺跡	半在家 遺跡	荻館	破魔射場 遺跡	沢上 遺跡	北松野 屋敷
山茶碗類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2	0	0
碗										2					
小皿										2			1		
片口鉢													1		
かわらけ	0	0	0	0	15	115	0	4	1	7	0	0	0	0	0
鍋類	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0
瓦質製品	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
常滑産	0	8	2	8	25	60	1	1	1	29	0	2	8	3	0
壺				1		1				2			6		
甕		7		6	23	51		1	1	22		1	2		
片口鉢		1	2	1	2	8	1			5		1		3	
渥美・湖西産	0	0	0	1	4	6	0	0	0	1	0	0	1	1	0
壺													1	1	
甕				1	4	5				1					
片口鉢						1									
瀬戸・美濃産	2	5	0	5	83	23	0	1	3	63	2	11	2	0	0
天目茶碗		1			4	5				9	1	1			
碗類				2	16					21	1	2			
皿類	1	1		1	16	6			2	14		1	2		
盤類		2		1	19	6				8					
御皿類					3					2					
播鉢	1	1		1	21	4			1	5		7			
壺・瓶類					2	1		1		3					
神仏具類															
鉢類					1										
小壺・小瓶					1										
その他						1									
不明										1					
貿易陶磁器	0	1	0	0	18	11	0	0	0	7	2	1	7	4	0
青磁	0	1	0	0	16	10	0	0	0	4	2	1	5	3	0
碗類		1			15	8				2	2	1	4	3	
皿類						1				1			1		
盤類															
壺類															
不明					1	1				1					
白磁	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	0	0	2	1	0
碗類										2			2	1	
皿類					1	1				1					
盃類															
壺類															
青白磁															
染付															
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
褐釉					1										
泉州系															
漳州窯系															
志戸呂窯	0	1	0	0	3	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1
天目茶碗															
皿類		1			1				1	1					
盤類										1					
播鉢					2										
その他															1
初山窯	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1
天目茶碗								1							
皿類					1							1			
その他															1
合計	2	16	2	14	151	219	1	7	6	115	4	15	20	8	1

第 25 表 貿易陶磁集計表

種別	器種	分類		三新田 遺跡	東平遺跡 3 地区	東平遺跡 28 地区	浅間林 遺跡	半在家 遺跡	荻館	破魔射場 遺跡	沢上遺跡
		窯	型式								
青磁	碗類	同安窯系	A 類								
			B 類	1		1				4	
		龍泉窯系	A 類	A1 (I -1)							
				A2 (I -2)		1					
				A3 (I -3)							
				A4 (I -4)				1			
				A 不明	1	2					1
			B 類 (蓮弁文)	B0 (Ⅲ)							
				B1 (I -5)	6	4	2	1	1		1
				B2 (へろ彫)							
				B3 (B')							
				B4 (C)	1						
			C 類 (雷文帯)								
			D 類 (端反碗)								
			E 類 (直口碗)								
			青磁碗不明		7						1
	皿類	同安窯系	櫛描文 (I 類)			1				1	
			劃花文 (I 類)								
		龍泉窯系	折縁皿				1				
			腰折皿								
			内轆皿								
			端反皿								
			稜花皿								
			不明								
	盤類										
	壺・瓶類										
	不明				1	1	1				
白磁	碗類		Ⅱ類 (玉縁)							1	
			Ⅳ類 (玉縁)				1				
			Ⅴ類 (端反)							1	
			不明				1				1
	皿類		Ⅱ類								
			Ⅳ類								
			Ⅴ類								
			Ⅸ類 (口禿)			1					
			B 群 (袂高台)								
			C 群 (端反)	C1	1						
			不明				1				
	盃										
	四耳壺 (壺か水注)										
	水注										
	合子										
青白磁											
染付											
その他	褐釉		天目茶碗		1						
	泉州窯系										
	漳州窯系										
	華南										
合 計				1	18	11	7	2	1	7	4

第26表 瀬戸美濃系集計表

	器種名 1	器種名 2	古瀬戸前期				古瀬戸中期					古瀬戸後期					古瀬戸	古瀬戸	大窯								大窯	不明	合計		
			I	II	III	IV	I	II	III	IV	中期	I	II	III	IV	古	新	後期	計	～大窯	1 前	1 後	2 前	2 後	3 前	3 後	4 前			4 後	大 窯
元吉原宿遺跡	皿類	鉄釉端反皿																0										1		1	
	播鉢	播鉢																0										1		1	
	合 計																	0	0									2		2	
三新田遺跡	天目	天目茶碗																0		1								1		1	
	皿類	鉄釉丸皿																0				1						1		1	
	盤類	灰釉盤類													1			2										0		2	
	播鉢	播鉢															1	1										0		1	
	合 計																	3	0									2		5	
善得寺跡・ 東泉院跡	碗類	灰釉平碗											1					2										0		2	
	皿類	灰釉縁袖小皿											1					1										0		1	
	盤類	灰釉卸目付大皿												1				1										0		1	
	播鉢	播鉢																0									1		1		
	合 計																	4	0									1		5	
東平遺跡 3 地区 - 伝法 A 地区 -	天目	天目茶碗														2	2			1								2		4	
	碗類	灰釉平碗										2	2	1	2	8	15				1								0		15
		鉄釉平碗														1	1												0		1
	皿類	灰釉縁袖小皿										2		1	1	1	6												0		6
		鉄釉縁袖小皿												1			4												0		4
		灰釉縁袖はさみ皿															0			5								5		5	
		灰釉折縁皿																0							1			1		1	
	盤類	灰釉直縁大皿											1		1		2												0		2
		灰釉卸目付大皿														2	4	7											0		7
		灰釉盤類											5		5			10											0		10
		卸皿	灰釉卸皿					1		1								3											0		3
	播鉢	播鉢													2	1	4			2		1	2	1			11	17		21	
	壺・瓶類	灰釉壺 or 瓶類														1	2	2										0		2	
	鉢類	灰釉碗形鉢														1		1										0		1	
	小壺・小瓶類	灰釉小壺 or 小瓶															1	1										0		1	
合 計																	58	0									25		83		
東平遺跡 28 地区	天目	天目茶碗												2	1	2	5											0		5	
	皿類	灰釉縁袖小皿										1	2	1			4												0		4
		鉄釉縁袖小皿											1				1												0		1
		灰釉縁袖はさみ皿																0			1								1		1
	盤類	灰釉盤類										6					6											0		6	
	播鉢	播鉢													1		2										2		4		
	壺・瓶類	鉄釉壺 or 瓶類														1	1											0		1	
その他	入子							1								1											0		1		
合 計																	20	0									3		23		
出口遺跡 - 伝法 B 地区 -	壺・瓶類	梅瓶						1									1											0		1	
	合 計																	1	0									0		1	
中原遺跡 - 伝法 C・D 地区 -	皿類	灰釉縁袖小皿										1					1											0		1	
	播鉢	鉄釉丸皿															0					1						1		1	
		播鉢													1		1											0		1	
合 計																2	0										1				

	器種名 1	器種名 2	古瀬戸前期			古瀬戸中期				古瀬戸後期					古瀬戸	古瀬戸	大窯								大窯	不明	合計			
			I	II	III	IV	I	II	III	IV	中期	I	II	III	IV	古新	後期	計	～大窯	1 前	1 後	2 前	2 後	3 前	3 後			4 前	4 後	大窯
浅間林遺跡	天目	天目茶碗											4	2	1		7	1	1									1		9
	碗類	灰釉平碗										2	1	3	3		8	19										0		19
		灰釉浅碗										1					1											0		1
		灰釉丸碗												1			0		1									1		1
		灰釉縁釉小皿										1		1	4		7											0		7
	皿類	灰釉腰折皿										1				1	1											0		1
		灰釉端反皿															0		1									1		1
		灰釉丸皿															0				1							1		1
		鉄釉稜皿															0				1							1		1
		灰釉縁釉はさみ皿															0		3									3		3
		灰釉折縁深皿											2				2											0		2
		盤類	灰釉目付大皿												1		3											0		3
		灰釉盤類										1		2		3											0		3	
	卸皿	灰釉卸皿					1			1						2											0		2	
	播鉢	播鉢													1	1		3			1						4		5	
	壺・瓶類	灰釉壺 or 瓶類					2									2												0		2
		鉄釉壺 or 瓶類														1	1											0		1
器種不明	灰釉不明														1	1											0		1	
合 計																50	1										12		63	
半在家遺跡	天目	天目茶碗														0					1						1		1	
	碗類	灰釉平碗												1		1											0		1	
	合 計															1	0										1		2	
萩館	天目	天目茶碗													1	1											0		1	
	碗類	灰釉平碗												1	1	2											0		2	
	皿類	志野丸皿														0								1			1		1	
	播鉢	播鉢												2		3								1	3		4		7	
	合 計															6	0										5		11	
破魔射場遺跡	皿類	灰釉折縁小皿									1					1											0		1	
	合 計	灰釉縁釉小皿										1				1											0		1	
																2	0									0		2		

第 27 表 志戸呂・初山集計表

志戸呂

	器種名 1	器種名 2	古瀬戸前期			古瀬戸中期					古瀬戸後期					古瀬戸計	古瀬戸 ～大窯	大窯								大窯計	不明	合計	接合後 個体数	
			I	II	III	IV	I	II	III	IV	中期	I	II	III	IV			古新	後期	1 前	1 後	2 前	2 後	3 前	3 後					4 前
三新田遺跡	皿類	鉄釉丸皿															0										1		1	
	合 計																0	0									1		1	
東平 3 地区 - 伝法 A 地区 -	皿類	灰釉内壳皿															0							1			1		1	
	播鉢	播鉢													2		2										0		2	
	合 計																2	0									1		3	
中原遺跡 - 伝法 C・D 地区 -	皿類	鉄釉縁釉小皿													1		1										0		1	
	合 計																1	0									0		1	
浅間林遺跡	皿類	鉄釉縁釉小皿													1		1										0		1	
	盤類	盤類(釉不明)													1		1										0		1	
	合 計																2	0									0		2	
北松野屋敷	その他	鉄釉德利															0							1			1		1	
	合 計																0	0									1		1	

初山

物品	器種名 1	器種名 2	古瀬戸前期			古瀬戸中期					古瀬戸後期					古瀬戸計	古瀬戸 ～大窯	大窯								大窯計	不明	合計	接合後 個体数		
			I	II	III	IV	I	II	III	IV	中期	I	II	III	IV			古新	後期	1 前	1 後	2 前	2 後	3 前	3 後					4 前	4 後
東平 3 地区 - 伝法 A 地区 -	皿類	鉄釉内壳皿															0								1			1			
	合 計																0	0									1		1		
出口遺跡 - 伝法 B 地区 -	天目	天目茶碗															0							1				1		1	
	合 計																0	0									1		1		
萩館	皿類	鉄釉内壳皿															0								1			1		1	
	合 計																0	0									1		1		

第28表 常滑集計表

	産地名	器種名	常 滑 型 式																年 代				不明	合計
			1a	1b	2	3	4	5	6a	6b	7	8	9	10	11	12	12C	13C	13 ~ 14C	15C				
三新田遺跡	常滑	甕			1					1								1		4		7		
		片口鉢Ⅱ								1											1			
	合 計																				8			
柏原遺跡	常滑	片口鉢Ⅰ				2															2			
	合 計																				2			
善得寺跡・ 東泉院跡	常滑	甕												2			1		3		6			
		片口鉢Ⅱ																	1		1			
		三筋壺														1					1			
	合 計																				8			
東平遺跡 3 地区 - 伝法 A 地区 -	常滑	甕				1		1					1					9	10		23			
						1																		
		片口鉢Ⅱ											1									2		
合 計												1									25			
東平遺跡 28 地区	常滑	甕				1		4					1			1	1	12	27		51			
									1				1											
									2															
		片口鉢Ⅰ						1													1			
		片口鉢Ⅱ						2	1	1	2	1									7			
	広口壺			1																	1			
合 計																					60			
三門市廃寺 - 東平 16 地区 -	常滑	片口鉢Ⅱ											1								1			
	合 計																				1			
出口遺跡 - 伝法 B 地区 -	常滑	甕																	1		1			
	合 計																				1			
中原遺跡 - 伝法 C・D 地区 -	常滑	甕			1																1			
	合 計																				1			
浅間林遺跡	常滑	甕					1						11				3	7			22			
		片口鉢Ⅰ					3														3			
		片口鉢Ⅱ							1				1								2			
		三筋壺			2																2			
合 計																				29				
萩館	常滑	甕					1														1			
		片口鉢Ⅱ						1													1			
	合 計																				2			
破魔射場遺跡	常滑	甕			1	1															2			
		三筋壺			1																1			
		広口壺			1	3										1					5			
	合 計																				8			
沢上遺跡	常滑	片口鉢Ⅰ					1														2			
		片口鉢Ⅱ						1				1									1			
	合 計																				3			

第 29 表 渥美集計表

	産地名	器種名	渥美・湖西年代					合計
			12C 中	12C 後半	12C 末～ 13C 初頭	13C 前半	不明	
善得寺跡・東泉院跡	渥美・湖西	甕			1			1
	合計							1
東平遺跡 3 地区	渥美・湖西	甕		4				4
- 伝法 A 地区 -	合計							4
東平遺跡 28 地区	渥美・湖西	甕		5				5
		片口鉢			1			1
	合計							6
浅間林遺跡	渥美・湖西	甕		1				1
	合計							1
破魔射場遺跡	渥美・湖西	壺					1	1
	合計							1
沢上遺跡	渥美・湖西	壺		1				1
	合計							1

第 30 表 山茶碗集計表

	産地名	器種名	12C 中	12C 後半	山茶碗年代		不明	合計
					12C 末～ 13C 初頭	13C 前半		
浅間林遺跡	東遠江	碗		2				2
		小皿			2			2
	合計							4
破魔射場遺跡	東遠江	小皿			1			1
		鉢			1			1
	合計							2

第31表 富士市遺物一覧表

三新田遺跡

PL No	図 No	種別 1	種別 2	産地	器種	分類	計測値			胎土・色調	残存	備 考
							口径	器高	底径			
PL.20－1	第194図－1	国産陶器		志戸呂	皿	鉄釉：大窯4段階併行	11.0	(2.0)	—	微砂粒 灰褐色 釉：暗褐色	口縁部 1/6	

東平遺跡3地区

PL No	図 No	種別 1	種別 2	産地	器種	分類	計測値			胎土・色調	残存	備 考
							口径	器高	底径			
PL.20－1	—	貿易陶磁	青磁	龍泉窯系	碗	B4類	—	—	—	緻密 淡灰色 釉：薄青緑色	体部破片	
PL.20－2	第195図－2	国産陶器		瀬戸美濃	平碗	灰釉：古瀬戸後Ⅳ古期	14.0	(4.7)	—	微砂粒 淡灰褐色 釉：薄緑色	口縁部 1/6	
PL.20－3	第195図－3	国産陶器		瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉：古瀬戸後Ⅳ古期	8.3	2.2	3.5	微砂粒 淡灰褐色 釉：薄緑色	1/8	
PL.20－4	第195図－4	国産陶器		瀬戸美濃	緑釉はさみ皿	灰釉：大窯1段階	11.2	(2.2)	—	微砂粒 淡褐色 釉：薄緑色	口縁部破片	
PL.20－5	第195図－5	国産陶器		瀬戸美濃	播鉢	錆釉：大窯3前段階	—	(5.9)	—	微砂粒 淡褐色 釉：濃紫褐色	口縁部破片	
PL.20－6	第195図－6	国産陶器		常滑	甕	6a型式	—	(2.6)	—	砂粒多 濃灰色	口縁部破片	
PL.20－7	第195図－7	国産陶器		常滑	甕	10型式	—	(5.0)	—	砂粒多 暗茶褐色	口縁部破片	
PL.20－8	第195図－8	国産陶器		常滑	片口鉢Ⅱ	9～10形式	—	(5.7)	—	砂粒多 明茶褐色	口縁部破片	
PL.20－9	第195図－9	国産陶器		志戸呂	播鉢	錆釉：古瀬戸後Ⅳ期併行	—	(7.7)	10.4	微砂粒 暗茶褐色	体下部 1/6	

東平遺跡28地区

PL No	図 No	種別 1	種別 2	産地	器種	分類	計測値			胎土・色調	残存	備 考
							口径	器高	底径			
PL.21－1	第196図－1	貿易陶磁	青磁	龍泉窯系	碗	A2類	—	(6.0)	—	緻密 灰白色 釉：薄灰緑色	口縁部破片	
PL.21－2	—	貿易陶磁	青磁	龍泉窯系	碗	A4類（？）	—	—	—	緻密 暗白色 釉：薄灰緑色	口縁部破片	
PL.21－3	—	貿易陶磁	青磁	龍泉窯系	碗	B1類	—	—	—	緻密 灰白色 釉：薄緑色	口縁部破片	
PL.21－4	—	貿易陶磁	青磁	龍泉窯系	碗	B1類	—	—	—	緻密 灰白色 釉：暗オリーブ色	口縁部破片	
PL.21－5	—	貿易陶磁	白磁		皿	Ⅸ類	—	—	—	緻密 灰白色 釉：灰白色 透明	口縁部破片	
PL.21－6	—	国産陶器		瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉：古瀬戸後Ⅲ期	—	—	—	微砂粒 淡灰色～淡橙褐色 釉：黒褐色	口縁部破片	
PL.21－7	第196図－7	国産陶器		瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉：古瀬戸後Ⅲ期	11.4	(3.5)	—	微砂粒 淡灰色～淡橙褐色 釉：黒褐色	口縁部 1/8	
PL.21－8	第196図－8	国産陶器		瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉：古瀬戸後Ⅳ古期	12.0	(4.9)	—	微砂粒 淡橙褐色 釉：暗茶褐色	口縁部 1/8	
PL.21－9	—	国産陶器		瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉：古瀬戸後Ⅰ・Ⅱ期	—	—	—	微砂粒 淡灰褐色 釉：薄緑色	口縁部破片	
PL.21－10	—	国産陶器		瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉：古瀬戸後Ⅲ期	—	—	—	微砂粒 淡灰褐色 釉：薄緑色	口縁部破片	
PL.21－11	—	国産陶器		瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉：古瀬戸後Ⅲ期	—	—	—	微砂粒 淡灰褐色 釉：薄緑色	口縁部破片	
PL.21－12	第196図－12	国産陶器		瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉：古瀬戸後Ⅳ古期	10.0	(1.8)	—	微砂粒 淡灰褐色 釉：薄緑色	口縁部破片	
PL.21－13	第196図－13	国産陶器		瀬戸美濃	緑釉小皿	鉄釉：古瀬戸後Ⅲ期	9.5	2.4	4.8	微砂粒 淡灰色 釉：暗褐色	1/3	
PL.21－14	第196図－14	国産陶器		瀬戸美濃	緑釉はさみ皿	灰釉：大窯1段階	10.8	2.7	4.7	微砂粒 淡灰褐色 釉：薄緑色	1/8	
PL.21－15	第196図－15	国産陶器		瀬戸美濃	入子	釉不明：古瀬戸前Ⅲ～中Ⅱ期	—	(1.5)	3.5	緻密 淡灰色	底部 1/2	
PL.21－16	—	国産陶器		常滑	甕	3～4型式	—	—	—	砂粒多 灰褐色	胴部破片	
PL.21－17	第196図－17	国産陶器		常滑	甕	5～6a型式	—	—	—	砂粒多 灰色	胴部破片	
PL.21－18	第196図－18	国産陶器		常滑	甕	5～6a型式	—	(3.5)	—	砂粒多 濃灰色	胴部破片	
PL.21－19	第196図－19	国産陶器		常滑	甕	5～6a型式	—	—	—	砂粒多 濃灰色	口縁部破片	
PL.21－20	—	国産陶器		常滑	甕	5～6a型式	—	—	—	砂粒多 灰褐色	胴部破片	
PL.21－21	第196図－21	国産陶器		常滑	片口鉢Ⅱ類	6a型式	—	(8.5)	—	砂粒 暗茶褐色	胴部破片	
PL.21－22	第196図－22	国産陶器		常滑	片口鉢Ⅱ類	6a型式	—	(4.5)	—	砂粒 暗茶褐色	口縁部破片	
PL.21－23	第196図－23	国産陶器		常滑	片口鉢Ⅱ類	8型式	—	(5.2)	—	砂粒 暗茶褐色	口縁部破片	
PL.21－24	第196図－24	国産陶器		常滑	片口鉢Ⅱ類	9型式	30.8	11.5	13.6	砂粒 灰褐色	1/6	
PL.21－25	—	国産陶器		常滑	片口鉢Ⅱ類	10型式	—	—	—	砂粒 灰褐色	口縁部破片	

三日市廃寺跡（東平遺跡16地区）

PL No	図 No	種別 1	種別 2	産地	器種	分類	計測値			胎土・色調	残存	備 考
							口径	器高	底径			
PL.20－1	第197図－1	国産陶器		常滑	片口鉢Ⅱ類	10型式	30.0	(9.0)	—	砂粒 暗茶褐色	1/8	

出口遺跡

PL No	図 No	種別 1	種別 2	産地	器種	分類	計測値			胎土・色調	残存	備 考
							口径	器高	底径			
PL.20－1	第198図－1	国産陶器		瀬戸美濃	梅瓶	鉄釉：古瀬戸中Ⅰ・Ⅱ期	—	(3.7)	—	微砂粒 明灰色 釉：濃灰緑色	体部破片	
PL.20－2	第198図－2	国産陶器		初山	天目茶碗	灰釉：大窯3後段階併行	11.9	6.1	4.4	砂粒・黒色粒子 暗橙褐色 釉：黒褐色	完形	焼成不良 釉不融

中原遺跡

PL No	図 No	種別 1	種別 2	産地	器種	分類	計測値			胎土・色調	残存	備 考
							口径	器高	底径			
PL.20－1	第 199 図－1	国産陶器		志戸呂	縁釉小皿	鉄釉：古瀬戸後Ⅳ期併行	10.5	(1.7)	－	緻砂粒 灰褐色 釉：暗茶褐色	口縁部 1/6	

浅間林遺跡

PL No	図 No	種別 1	種別 2	産地	器種	分類	計測値			胎土・色調	残存	備 考
							口径	器高	底径			
PL.22－1	第 200 図－1	貿易陶磁	青磁	龍泉窯系	碗	B1 類	13.0	(4.7)	－	緻密 淡灰色 釉：薄灰緑色	口縁部破片	
PL.22－2	－	貿易陶磁	青磁	龍泉窯系	碗	B1 類	－	－	－	緻密 淡灰色 釉：薄灰緑色	口縁部破片	
PL.22－3	第 200 図－3	国産陶器		瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉：古瀬戸後Ⅳ新期	11.5	(3.1)	－	緻密 橙褐色 釉：黒褐色	口縁部破片	
PL.22－4	第 200 図－4	国産陶器		瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉：大窯 1 段階	11.6	(5.5)	－	緻密 淡橙褐色 釉：茶褐色	1/4	
PL.22－5	第 200 図－5	国産陶器		瀬戸美濃	平碗	灰釉：古瀬戸後Ⅱ・Ⅲ期	16.0	(4.9)	－	微砂粒 淡褐色 釉：薄緑色	口縁部 1/8	
PL.22－6	第 200 図－6	国産陶器		瀬戸美濃	平碗	灰釉：古瀬戸後Ⅳ古期	16.2	6.6	4.9	微砂粒 淡灰褐色 釉：薄緑色	1/6	
PL.22－7	第 200 図－7	国産陶器		瀬戸美濃	丸碗	灰釉：大窯 1 段階	12.5	(5.0)	－	微砂粒 淡灰褐色 釉：薄緑色	口縁部 1/4	
PL.22－8	第 200 図－8	国産陶器		瀬戸美濃	縁釉小皿	灰釉：古瀬戸後Ⅲ期	10.4	(1.7)	－	微砂粒 淡灰褐色 釉：薄緑色	口縁部 1/6	
PL.22－9	第 200 図－9	国産陶器		瀬戸美濃	縁釉小皿	灰釉：古瀬戸後Ⅳ新期	10.2	(2.4)	－	微砂粒 乳白色 釉：薄緑色	口縁部 1/6	
PL.22－10	第 200 図－10	国産陶器		瀬戸美濃	椀皿	鉄釉：大窯 2 段階	10.8	2.2	4.5	微砂粒 淡灰褐色 釉：濃茶色	完形	底部内外面 重ね焼痕あり
PL.22－11	第 200 図－11	国産陶器		瀬戸美濃	折腰皿	灰釉：古瀬戸後Ⅳ新期	11.0	(2.0)	－	微砂粒 乳白色 釉：乳白～淡灰緑色	口縁部破片	
PL.22－12	第 200 図－12	国産陶器		瀬戸美濃	卮皿	灰釉：古瀬戸中期	－	(2.0)	7.6	微砂粒 灰色 釉：薄緑色	底部 1/2	底部外面施釉
PL.22－13	第 200 図－13	国産陶器		瀬戸美濃	卸目付大皿	鉄釉：古瀬戸後Ⅲ・Ⅳ古期	－	(7.0)	15.0	微砂粒 淡灰褐色 釉：黒褐色	底部 1/8	
PL.22－14	第 200 図－14	国産陶器		瀬戸美濃	盤類	鉄釉：古瀬戸後Ⅲ・Ⅳ古期	－	(2.6)	16.0	微砂粒 淡褐色 釉：明茶褐色	体～底部 1/8	
PL.22－15	第 200 図－15	国産陶器		瀬戸美濃	搦鉢	錆釉：古瀬戸後Ⅳ新期	－	(6.9)	－	微砂粒 淡褐色 釉：濃紫褐色	口縁部破片	
PL.22－16	第 200 図－16	国産陶器		瀬戸美濃	搦鉢	錆釉：大窯 3 後段階	26.0	(3.5)	－	微砂粒 淡褐色 釉：濃紫褐色	口縁部破片	
PL.22－17	第 200 図－17	国産陶器		瀬戸美濃	壺 or 瓶	灰釉：古瀬戸中Ⅰ～Ⅲ期	－	(5.6)	－	緻密 淡褐色 釉：薄緑色	体部破片	
PL.22－18	第 200 図－18	国産陶器		常滑	片口鉢Ⅱ	Ⅱ 型式	－	(5.4)	－	砂粒 暗茶褐色	口縁部破片	
PL.22－19	第 200 図－19	国産陶器		志戸呂	縁釉小皿	鉄釉：古瀬戸後Ⅳ期並行	－	(1.6)	－	微砂粒 灰褐色 釉：明茶褐色	口縁部破片	

荻館

PL No	図 No	種別 1	種別 2	産地	器種	分類	計測値			胎土・色調	残存	備 考
							口径	器高	底径			
PL.20－1	第 201 図－1	国産陶器		常滑	甕	5・6a 型式	－	(7.0)	－	砂粒多 暗茶褐色	口縁部破片	
PL.20－2	第 201 図－2	国産陶器		初山	内禿皿	鉄釉：大窯 3 後段階併行	－	(1.2)	6.4	砂粒・黒色粒子 暗灰褐色 釉：黒褐色	底部 1/4	

沢上遺跡

PL No	図 No	種別 1	種別 2	産地	器種	分類	計測値			胎土・色調	残存	備 考
							口径	器高	底径			
PL.20－1	第 202 図－1	貿易陶磁	青磁	龍泉窯系	碗	B1 類	12.6	(2.9)	－	緻密 灰白色 釉：薄緑色	口縁部破片	
PL.20－2	第 202 図－2	国産陶器		常滑	片口鉢Ⅱ	8 型式	－	(8.9)	－	砂粒 茶褐色	口縁部破片	
－	第 202 図－3	国産陶器		渥美	壺	12 世紀後半	10.8	21.5	9.0	微砂粒 淡灰褐色 釉：灰白色	口縁部一部 欠損	

北松野屋敷遺跡

PL No	図 No	種別 1	種別 2	産地	器種	分類	計測値			胎土・色調	残存	備 考
							口径	器高	底径			
PL.20－1	第 203 図－1	国産陶器		志戸呂	徳利	鉄釉：大窯 4 段階併行	－	(4.0)	9.8	微砂粒 暗褐色 釉：濃茶褐色	底部 1/3	

今井五輪塔群

PL No	図 No	種別 1	種別 2	産地	器種	分類	計測値			胎土・色調	残存	備 考
							口径	器高	底径			
－	第 193 図－1	国産陶器		常滑	三筋壺	2 型式	－	(23.1)	7.7	緻密 淡褐色	口縁部欠損	

鎌研 4 号塔

PL No	図 No	種別 1	種別 2	産地	器種	分類	計測値			胎土・色調	残存	備 考
							口径	器高	底径			
－	第 193 図－2	国産陶器		瀬戸美濃	四耳壺	灰釉：古瀬戸前Ⅲ・Ⅳ期	－	(26.0)	9.8	緻密 淡褐色 釉：淡緑色	口縁部欠損	
－	第 193 図－3	国産陶器		瀬戸美濃	四耳壺	灰釉：古瀬戸前Ⅲ・Ⅳ期	－	(24.8)	10.0	緻密 淡褐色 釉：薄緑色	口縁部欠損	
－	第 193 図－4	国産陶器		瀬戸美濃	瓶子Ⅱ	灰釉：古瀬戸前Ⅲ・Ⅳ期	－	(27.0)	7.4	微砂粒 淡褐色 釉：薄緑色	口縁部欠損	